

金沢市における時差出勤の試行実験について

金沢市交通対策課
(株)計画情報研究所
金沢大学工学部

○小村 正隆
松本 佳子
高山 純一

1. はじめに一時差出勤とは一

「時差出勤」は、「交通需要の時間的平準化」という観点から、道路渋滞緩和とともに電車・バス等の車内混雑緩和の効果を目的としたものである。この時差出勤については、早くから取り組みが行われている。昭和40年に交通対策本部から「時差出勤通学対策について」(S40.10.14)という通達が出され、東京における交通混雑を緩和するため、国家公務員等の時差出勤を実施することなどがなされてきた。以後大都市においては、同様の取り組みがなされてきた。また、労働福祉的な側面から見ると、通勤時の疲労の緩和、遠距離通勤者に対する配慮等をあげることができる。これらのことを踏まえ、金沢において時差出勤を導入することが交通、個人、家族、企業、社会に対していかなる影響をおよぼすのか、以下金沢市「時差出勤等研究会」の研究に基づき報告したい。

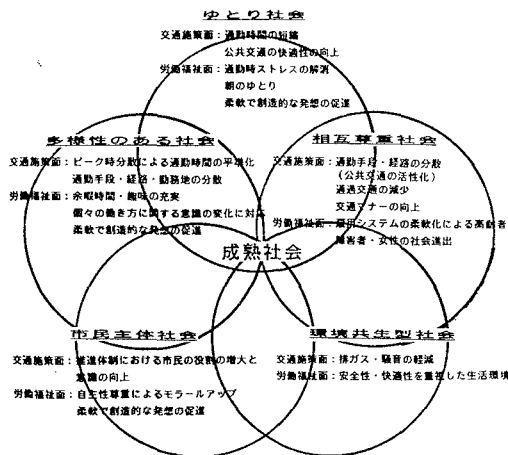


図1 時差出勤の位置づけ

2. 時差出勤による渋滞緩和効果について

前述の本研究会において、昨年度、時差出勤の実施による渋滞長の変化について、大まかではあるがシミュレーションを行い、その効果を検討した。

前提となるデータは、平成４・５年に実施された石川県と金沢市の共同事業である通勤時のパーク・

アンド・ライドシステムの実験に参加した個人なら
びに都心部における事業所に対して行ったアンケー
ト調査結果によるものである。

始業時刻については、図2で示すとおり、8時30分から9時までの間に集中している(83%)。これに対応する交通量を示すものが図3であり、3つの橋梁(犀川大橋、桜橋、御影大橋)を通過する自動車交通量を都心部着と都心部通過とに分けて示した。このように、都心部着の交通量は8時過ぎをピークとしてる。

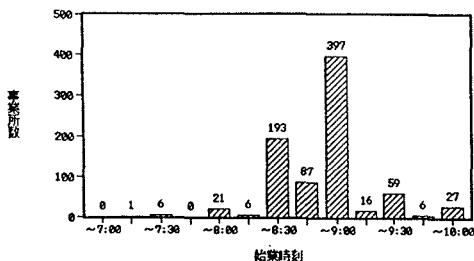


図2 金沢都心部における始業時刻別事業所数

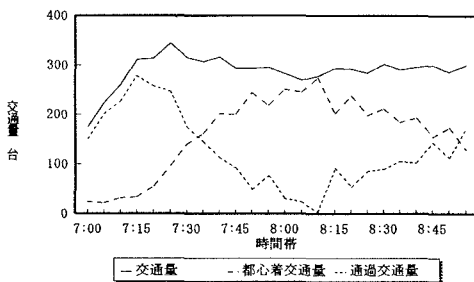


図3 時間帯別にみた都心関連交通量

シミュレーションでは、都心部で始業時刻が8時30分～9時の事業所に自動車通勤している人のうち、30%の人を30分早い始業とし、30%の人を30分遅い始業とした場合、渋滞長の変化を見ると、図4に示すグラフとなる。これによるとピーク時で約40%の渋滞長の減少効果が見られる。さらに、ピーク後の渋滞長の増加が少ないことより、時差出勤の導入効果が高いことが検証された。

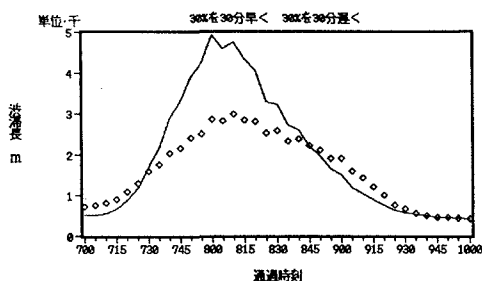


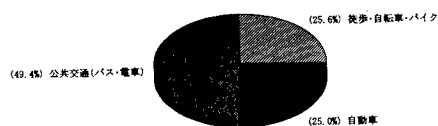
図4 シミュレーションによる時差出勤導入の効果分析

3. 金沢市職員による時差出勤試行

前述のとおり、シミュレーションによって時差出勤導入の効果が確認されたが、実際に時差出勤を導入しなければ確認できない問題も多く残されている。そこで、想定される人事管理上の問題や業務遂行上の問題、また各個人において所要時間がどれほど変化するか、さらに朝に余暇時間が発生することによるライフスタイルがどう変化するかなどについて、職員が体験することにより把握することを目的として、平成7年11月6日（月）から4週間、本庁に勤務する一部の部課で時差出勤の試行実験を行った。

ここでは、前半の2週間で10時始業とし、後半2週間で9時30分始業とした。1日ごとに勤務体系が変わってはよい結果が得られない恐れがあったため、1週間交代で各課の半数を時差出勤とした。そして、残り半数を通常勤務である9時始業とすることにより、すべての職員が両方の時差出勤を体験できるようにした。この試行実施者（145人）の属性を図5に示す。

交通手段別人数



居住地別人数

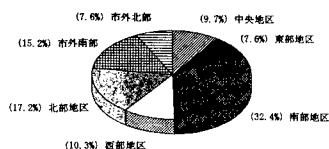


図5 試行実施者の属性

この試行結果は現在集計中であるが、体験者の意見としては、都心部に居住している人を除いて、概ね時差出勤を良い制度であると認識している。

4. 今後の方向性

平成5年度に行った都心部事業所調査では、金沢市における時差出勤等の導入企業は約12%であり、検討中の企業が約4%という結果となっている。このことより、まだ金沢市では時差出勤が普及しているとは言い難い状況である。

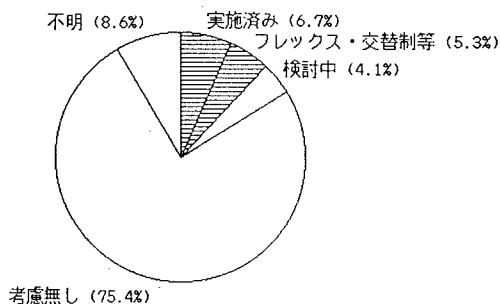


図6 金沢都心部における時差出勤の導入状況

しかしながら、シミュレーションの結果から、時差出勤を導入することによりピーク時の渋滞長が減少することは明らかであり、さらに本市での試行実施結果から、所要時間の短縮や朝ゆとりをもって出勤できるなどのメリットがあることも検証できている。今後は、いかにして市内の事業所に時差出勤の導入を促していくかが課題となってくる。

時差出勤の効果は各事業所が導入することによって始めて実現する施策である。そのためにも、より多くの事業所の協力が必要となってくる。そこでまず、今回の調査で得た効果や時差出勤のメリットを紹介するパンフレット等を作成し、事業所に試行の実施を依頼し、体験してもらうことにより、少しでも多くの事業所が時差出勤を導入するよう働きかけていきたいと考えている。また、試行時には、事前の通勤実態調査や時差出勤中のアンケート調査などを実施し、試行時に生じた問題点などに関してのアドバイス等を行い、よりスムーズに本格的導入が行えるよう支援していきたい。

参考文献：金沢市時差出勤等導入可能性調査報告書